

青い地球を子どもたちに残そう

みなさん一人ひとりの暮らしが問われています

「ごみ」とはいったいどんな物を示しているのでしょうか。社会や時代、人によって、同じ物でも「ごみ」として捨てる場合もあれば、価値のある物として生かしている場合もあります。もともと自然の中で、物が循環している時代や社会では、「ごみ問題」は無いといえるでしょう。

私たちが暮らす現代社会では、「ごみ」の処理についてさまざまな問題が発生しています。「ごみ問題」が深刻化している背景には、プラスチックなどのもともと自然界にはなかった物が安易に廃棄され、自然循環の中で対処しきれなくなっている現状があります。

「ごみ」はなぜ「ごみ」なのでしょう。この問いかけを突き詰め、考えていくことは、「ごみ」を生み出す社会の価値観を問い直し、人と環境との関わり方を問い直すことにもつながるでしょう。

そこで、「ごみ」が地球にもたらす影響を知り、本町で、また私たちができることは何か、考えてみましょう。



ごみ処理の現状

平成19年度に町内の各家庭から出されたごみを合わせると1578ト。この処理に使われた経費は1億1787万円です。この数字は、年々増加しています。

ごみが増えた要因は、多様化する生活様式や生活水準の向上などいろいろ考えられます。しかし、子どもたちに住みよいまちを引き継ぐために、このままごみを増やし続ける訳にはいかないのです。

「使い捨て社会」と言われた20世紀に別れを告げ、21世紀は、環境への負荷が少ない「循環型社会」を形成することが急務となっています。

暖かくなってしまう地球

ごみの増加とともにクローゾアップされてきたのが、地球温暖化です。地球温暖化は、ごみなどを焼却した二酸化炭素等の温室効果ガスが、地球の外へ熱を放射しにくくしているのが原因です。